決議第 10 号

2029 年度「全国豊かな海づくり大会」の延岡市開催を求める決議

宮崎県が2029年度（令和11年度）の招致を目指す「全国豊かな海づくり大会」は、水産資源の保護・管理と環境保全の重要性を広く啓発し、つくり育てる漁業の推進を通じて水産業の振興を図る国民的行事として、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぐ「四大行幸啓」の一つであり、本県での開催が実現すれば、1995年（平成７年）以来、34年ぶり２度目となる。

本市は、日向灘の黒潮と五ヶ瀬川・北川などの清流が交わる複雑な海況、および大分県境にかけて広がるリアス式海岸を有し、全国屈指の好漁場として知られている。また、延岡市の水産業は歴史的にも極めて重要であり、明治25年に考案された「日高式大敷網」は、現在の大型定置網の原型となった。当時、ブリ漁において未曾有の水揚げを誇ったこの漁法は「水産業界の産業革命」と称され、本市から全国へと普及し、日本の水産業発展の礎を築いた。

現在、本市には４つの海面漁業協同組合があり、イワシ・アジ・サバ類を対象としたまき網漁業のほか、船曳網漁業、大型定置網漁業、深海底曳網漁業、そして、リアス式海岸を利用した養殖業など、多岐にわたる漁業が営まれている。一方、内水面漁業においては、７つの協同組合があり、五ヶ瀬川では、300年以上の歴史を誇り秋の風物詩である「鮎やな漁」が盛んであり、清流が育んだ尺アユを求めて県内外から多くの釣り人が訪れるレジャースポットとしても親しまれている。

このように、古くから多様な漁業を育んできた本市は、本大会の目的である「水産業の振興と発展」を具現化する上で、まさに最適な環境にある。加えて、革新的な技術と豊かな歴史は、日本の水産業の歩みと未来を全国に発信する上で貴重な要素となるものであり、本大会の開催は、水産・観光振興や地域経済の活性化に寄与するのみならず、市民が海洋環境への理解を深め、豊かな資源を次世代へ継承する絶好の機会となる。

よって、本市議会は、2029年度大会の宮崎県への招致が実現した際には、本市の歴史的背景と特性を十分に考慮し、延岡市を開催地として選定するよう、強く要望する。

以上、決議する。

令和８年９月 18 日

延　岡　市　議　会